

第1章 研究の概要

1.1 研究の目的

道路利用者の安全性向上に向けて、コンクリート片の落下などの第三者被害を予防するための対策が行われている。しかし、これらの第三者被害防止を目的として使用される予防措置技術（以下、「落下防止対策」という。）に求めるべき具体的な性能については不明な点も多い。

本研究では、橋梁等における過去のコンクリート片等の落下事例や橋梁点検結果から第三者被害発生の恐れがある損傷の特徴や規模を整理し、落下防止対策に求められる性能の構成要素を設定した。設定した構成要素とこれまでに提案されている試験方法を比較することで充実が必要と考えられる試験項目の抽出を行い、抽出した項目について試験法の提案、検証を行った。そして、研究の成果を分かりやすく示すために、形式上、既往の試験法と並ぶ形で、マニュアル様式として調査成果をまとめた。

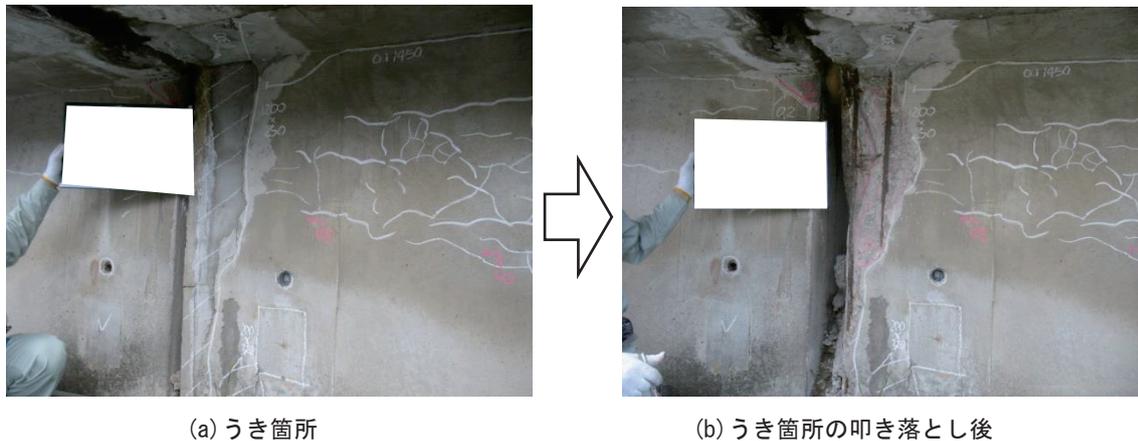


写真 1.1.1 コンクリート片の落下懸念箇所の例

1.2 研究の構成

図 1.2.1 に本研究のフローを示す。

第1章では、本研究の目的と構成を述べる。

第2章では、既往文献調査や橋梁の第三者被害防止を目的とした特定点検結果からコンクリート片落下の実態調査を行い、第三者被害発生の恐れがある損傷の特徴や規模について整理し、コンクリート片落下防止対策に求められる性能の構成要素を考察した。

第3章では、現行のコンクリート片落下防止対策の基準・試験方法を整理し、第2章で設定した現行のコンクリート片落下防止対策の要求性能と比較することで実態のコンクリート片落下防止対策に不足している性能検証項目を抽出した。

第4章では、第3章で抽出した性能検証項目について実験を実施し、負荷条件等の実験方法を試した。

第5章では、本研究で得られた成果をとりまとめた。

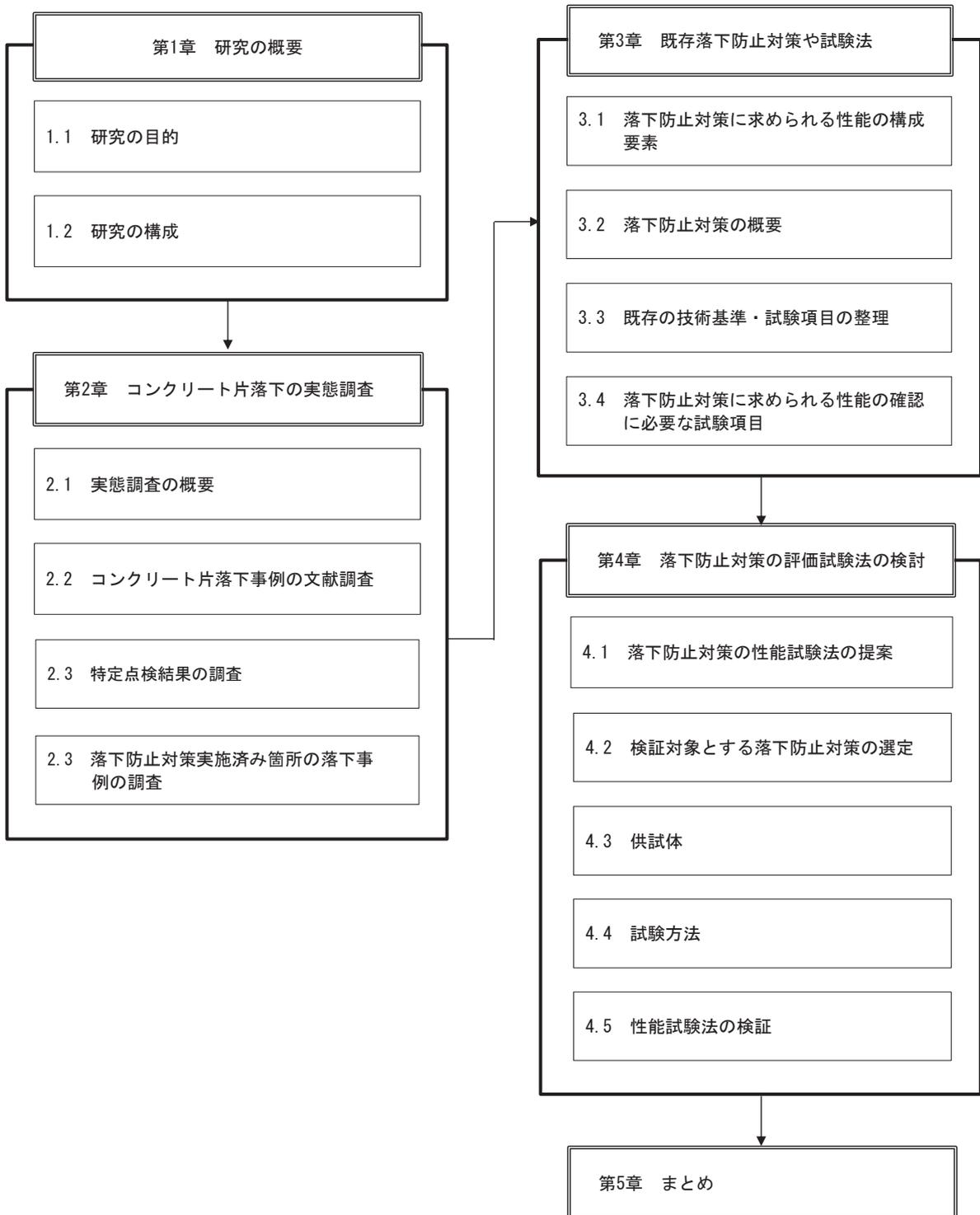


図 1.2.1 研究フローと報告書の構成